

# Fusyo Collaboration letter



11月 18日 No.24 文責 廣田 秀俊

## 大分で日本の教育を学ぶ

11月13日(水)に、ASEAN 諸国から多くの方が附属小を視察にやってきました。インドネシア・カンボジア・タイ・フィリピン・ブルネイ・ベトナム・マレーシア・ラオス。それぞれの国の中等教育に携わる校長先生や教育行政官の方々がいらっしゃいました。

午前中に小学校で、掃除、朝の会、防犯訓練の視察と授業参観、給食会食を行い、午後は附属中で、授業観察、掃除や部活動の視察を行いました。

開会行事で自己紹介をして、すぐにキラキラ掃除を見てもらいました。チームになって黙々と掃除をする姿に驚いていました。普段自分の使う教室でなくても、きれいに磨き上げている様子に感心する声が上がっていました。

フリートークが行われている教室もまわっていきました。子どもたちが積極的に手をあげ、話題をつなげ広げていく姿やお互いに認め合う活動は、ASEAN 諸国では実施されていないようです。附属小の児童の姿勢が、日本の教育のお手本として、海を渡って実践されていくのかも知れません。

附属小の教育活動の説明として、生活プログラムについての特色や掃除を代表としたチーム活動のねらいやよさを話していきました。

この日は四校園での防犯訓練も実施されるため、訓練についての目的や方法等を知らせていくことで、実際の訓練にもしっかりと目を向け、視察を行っていました。

基本的な授業の様子や行事の教育的意義も、日本ならではの部分がたくさんあるようで、メモを取ったり、一つ一つの話を楽しみながら聞いたりする校長先生方の姿がありました。

教育実習や保健室の話をする、その内容に関心を持たれ、実際に授業を行っている学生の様子を見たり、保健室を実際に訪れたりすることにも熱が入っていました。

教育活動についての質問もたくさん出されました。実習生のシステムを詳細に聞いたり、児童の成績表や卒業試験など子供に関わる質問だったり、先生の採用人数を聞いたりする場面は、管理職ならではの問いだと感じました。何より子供たちの規律の正しい行動を見て、どのような教育が行われることで成り立っていくのかを真剣に問うていました。

給食時間は各クラス2名ほどずつ教室に入り、楽しい時間を過ごしました。これまでの学習を活かして、英語を使って質問したり、中にはラオス語を使って案内したりする6年生の姿も見られました。

